

科研費増額要望書の署名開始について（続報）

2024年7月9日

日本蛋白質科学会会員各位

[前号 \(Vol. 24, No. 6\) のニュースレター](#)でお伝えしました通り、生物科学学会連合「科学研究費助成事業の全体額増加に関する要望書」の署名が開始され、順調に署名数が増えております。

先週には朝日新聞に取り上げられ、

<https://www.asahi.com/articles/ASS6V3G5RS6VULBH00CM.html>

今週はNatureのトップページに記事が掲載されました。

<https://www.nature.com/articles/d41586-024-00942-8>

また、7月8日月曜日に文部科学省記者クラブで記者会見を行いました（次ページのプレスリリースをご参照ください）。

さて、署名方法につきまして前号のニュースレターで詳細をお伝えしましたが、その際に「今すぐ賛同」ボタンを押した後に「『この署名を応援しましょう』といった案内が表示されますが、課金は不要ですので、ページを閉じていただいて問題ありません」というご案内をしました。ところが、さまざまなページが表示されて混乱しているというお声が多数寄せられております。改めてのご案内となりますが、「今すぐ賛同」ボタンを押した後、ページを閉じていただいてかまいませんので、よろしくお願いいたします。

生物科学学会連合「科学研究費助成事業の全体額増加に関する要望書」署名サイト

<https://seikaren.org/kakenhi>



電子メール版ニュースレター発行

〒562-0015 大阪府箕面市稲 4-1-2 日本蛋白質科学会事務局

Tel : 072-729-4125 / Fax : 072-729-4165

E-mail : jimmu@pssj.jp URL : <https://www.pssj.jp/>

編集責任者：竹内 恒（東京大学）

矢木 真穂（名古屋市立大学）

2024年7月8日

報道関係各位

学会連合有志

「日本の未来のために、科研費の増額を求めましょう！」
7月1日に署名サイトをオープンしました

大学における基礎的な研究（と教育）は、運営費交付金等の基盤経費と科学研究費（以下、科研費）の両輪によって支えられています。しかし、基盤経費の削減が科研費への皺寄せ（申請数の増加による配分額の減少）となっていることに加え、円安・物価高・ジャーナル出版費用高騰などにより、この10年で科研費は実質半額以下となりました。

このデュアルサポートシステムは、「イノベーション／産業を作る研究の芽の創成」「科学技術立国たる日本を支える若手人材輩出」という意味で日本の底力の根幹であると言えます。しかしながらこの危機的状況が科学行政に理解されているとは言い難い状況にあります。

そこで幅広い分野の学会連合および学協会が結集し、科研費の増額を内閣総理大臣、文部科学大臣、財務大臣等に要望書を提出することと致しました。またこの要望にあたりましては、広く一般の方々にご理解・ご支援をいただきたく、署名サイトをオープン致しました。一人でも多くの方のご賛同・ご署名をいただき、創造性豊かな研究の勢いを取り戻し、人材育成も通じてより良い日本の未来に貢献したいと考えています。

◎「科学研究費助成事業の全体額増加に関する要望書」 特設サイト
<https://seikaren.org/kakenhi>



7月8日（月）12時 @文部科学省

【登壇者】

東原 和成（生物科学学会連合代表/東大農）
後藤由季子（生物科学学会連合副代表/東大薬）
木村 宏（日本分子生物学会広報幹事/東工大）

【お問合せ先】

gakkai-rengo-yuushi@nacos.com
(メールのみのお問合せ対応となります)

